飯能市立博物館

天覧山周辺に見るどんぐりたち

本橋 綾香

秋、天覧山・多峯主山は黄、橙、茶色に色づきます。山の中には低木の赤い実や、どんぐりの実が見られます。

秋のコナラ林

左上：クヌギ、左下：スダジイ
右上：コナラ、右下：シラカシ

コナラの芽生え

ブナ科の木の硬い実のことをどんぐりと呼びます。天覧山・多峯主山で見かけるどんぐりのなる木は、コナラ、クヌギ、アラカシ、シラカシ、スダジイなどです。

コナラ、クヌギは、天覧山・多峯主山の主要な落葉樹で、アラカシ、シラカシ、スダジイは常緑樹です。どんぐりの種類を見わけるポイントは、どんぐりの実を支える「殻斗(かくと)」という部分です。これはどんぐりの「帽子」に例えられ、種類によって模様や形が違います。例えばコナラは鱗模様、カシ類は縞模様（シラカシはアラカシより殻斗が長く、縞の数が多い)、クヌギはトゲトゲした形です。ちなみに秋においしいクリの実は、クリのイガ部分が殻斗にあたります。クリのように初めは殻斗が実全体を包んでいて、熟すと先端が割れ、中から実を覗かせるスダジイのようなどんぐりもあります。

どんぐりには大きく分けて、１年で熟すものと２年かけてゆっくり熟すものがあります。天覧山・多峯主山で一番よく見られるコナラのどんぐりは、春に咲いた花が受粉してその年の秋に実が熟す「１年型」です。

10～11 月になるとどんぐりは茶色に熟し、冬越しを迎える動物たちの貴重な栄養源になります。コナラはたくさんの実をつけますが、動物に食べられたどんぐりは砕かれるため芽を出すことはできません。リスなどの小さな哺乳類や鳥のカケスは、冬越しのためにどんぐりを貯蔵する性質があります。このような動物たちに食べられずに残ったどんぐりが春に芽を出し、その中でも環境など条件に恵まれたものだけが大きくなることができます。春に雑木林の地面を探すとコナラの芽生えをたくさん見つけることができますが、今の林になっている木の数を考えれば、この幼木たちにはかなり過酷な生存競争が待ち構えているのです。

どんぐりは、豊作と不作の年を不規則に繰り返すと言われています。山道を歩くと足元から割れる音がするほど、今年はたくさんのどんぐりが落ちています。山の動物たちにとって嬉しい年かもしれませんね。今年は「紅葉狩り」ならぬ「どんぐり狩り」を楽しむのはいかがでしょうか。